

# 歴史紀行

シリーズ  
「博物館コレクション」第5回

## 大内菱文双鶴鏡片 (郡山大通院谷遺跡出土)

～銅鏡のおはなし～



安芸高田市歴史民俗博物館  
学芸員 和田 麻衣子

今回は郡山大通院谷遺跡  
(吉田町吉田) から出土した  
銅鏡について取り上げます。



写真 銅鏡(大内菱文双鶴鏡)

**郡山大通院谷遺跡**  
郡山城跡の西側山麓に位置し、砂防事業に伴い発掘調査された旧石器から近世までの複合遺跡です。遺跡からは、城の内堀と考えられている薬研堀、その外側には屋敷跡が見つかりました。16世紀中頃から終わり頃に作られた薬研堀から出土した、輸人品で高級な焼き物(陶器・磁器)や茶道具、武器などから、郡山城主であった毛利氏の家臣級の人々が豊かな暮らしを送った様子が伺えます。

**銅鏡**  
銅鏡は、弥生時代に古代中国から日本に持ち込まれたのが始まりで、儀式などに使われ、権力のしるしとして有力者に広まり、国内でも熱で融かした金属を、鋳型に流し込む鑄造という方法で作られました。それまで中国風の模様を模した鏡が主流でしたが、平安時代後期以降は、桜・藤・鶴・雁・雀など日本的な模様を表した和鏡として発展していきます。和鏡は化粧道具として用いられ、特に縁起のよい鶴亀の模様は未永く幸せであるようにと、嫁入り道具にも使われました。室町から江戸時代にかけては、鏡面は良く光るように錫メッキが施され、柄付きのものも登場しました。そして明治時代にはガラス製に変わります。

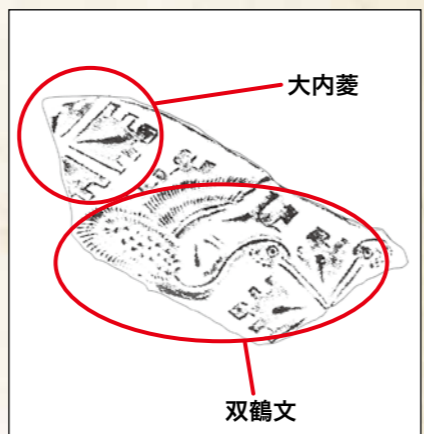


図 鏡破片の拓本(裏面)



郡山大通院谷遺跡位置

**大内氏の嫁入り道具?**  
この銅鏡の破片(写真・図)は、十六世紀のもので、横7cm縦約4cmですが、もとは直径20cm以上の丸い鏡でした。模様は、大内菱とよばれる大内氏の家紋と二羽の鶴がクチバシを合わせています。大内氏は周防の守護で、当主義隆の養女で毛利元就の長男隆元に嫁いだ尾崎局とよばれた人物の、嫁入り道具と考えられています。(図出典：吉田町地域振興事業団調査報告書第7集郡山大通院谷遺跡《中世編》2002 財団法人 吉田町地域振興事業団)

このコーナーは市内のいろいろな出来事を紹介するコーナーです。皆さんの身近な出来事をお知らせください。

総務課秘書広報室  
〒731-0592 安芸高田市吉田町吉田791番地  
☎お太助フォン 42-5627 ☎42-4376

## HOTな話題

3月31日(土) JR三江線 式敷駅

### ありがとう三江線 お別れセレモニー



この日最後を迎えた三江線。セレモニーが行われた式敷駅には約500人が集まり思い出の詰まった三江線との別れを惜しまました。当日は三江線のパネル展示や、絵本読み聞かせグループ「ことだま」による読み聞かせ、記念グッズや特産品の販売なども行われました。

式では船佐小学校児童による“ふなさっ子太鼓演奏”なども行われ、多くの参加者がバスの出発を見送りました。市民の新しい交通手段となる代替バスは年365日運行します。

4月1日(日)  
旧JR三江線 式敷駅  
三江線代替バス出発式



船佐小学校の児童から運行事業者へ花束の贈呈も行われました

4月8日(日) 第12回 郡山桜まつり  
郡山公園



池を囲むように桜が植えられた郡山公園。今年は例年より早い開花となりましたが、ステージイベントやバザーなどが行われ、多くの来場者で賑わいました。

4月8日(日)  
向原生涯学習センターみらい  
向原さくらの舞 神楽共演大会



各地で行われた神楽大会で実績を残した人気神楽団が夢の共演。宮乃木神楽団、原田神楽団、琴庄神楽団、中川戸神楽団、横田神楽団、大塚神楽団の6団体が出演し、県内外から集まった神楽ファンを魅了しました。

4月22日(日)  
向原農村交流会館やすらぎ、ふるさと河原公園  
第10回 アートまつりin向原



音楽ライブやワークショップ、ステージイベントなどで今年も大盛り上がり。晴天にも恵まれ約5,000人の来場者で賑わいました。昨年に続いて設置された逆バンジーも大好評!

4月8日(日) 八千代の丘美術館  
八千代の丘美術館 春まつり



入館作家の入れ替えに伴って開催された春まつり。当日は無料で開放され、入館作家の交代式や新しく入館する第17期入館作家によるギャラリートークなどが行われました。